

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 19 No 4

213号

平成23年 4月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

東日本大震災

院長

東北地方太平洋沖地震は、未曾有の被害をもたらした。地震によってもたらさせた被害を東日本大震災と呼び、3週間経った現在でも大きなツメ跡を残しているばかりか、更なる問題を引き起こしています。

はじめに、今回の震災で被災した方々にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

3月11日(金)14:46 予防接種の最中に、突然の轟音(聞こえたような気が)と、とてつもない大きな揺れが。あまりの大きさに覚えてないけど、時間も長く、立ってられないほど。患者さんたちの大きな悲鳴も飛び交う状況。たまたまクリニックにいた4組の家族とともに、スタッフは抱きあひながら余震のなかで冷静に対応。被害の大きさが気になっていたけど、停電でテレビも見れず、もちろん携帯もつながらない。暗くなるに連れて、不安が大きくなり、家に帰れないと訴える家族も。少し落ち着いた時期を見計らい、2階の院長室へ。1階のクリニックよりもひどい揺れでメチャクチャ。スチール本棚が、イスにぶつかり壊れていた。もし自分がいたらと思うと。ご主人が迎えに来るという患者さんを夜10時まで預かり、スタッフも病院で一晩を明かした。Twitterで1回目「大地震だ」を発信。

12日(土)電気、水道、ガスも使えず、カルテ棚が倒れ、目一杯物が散乱したクリニックの後片づけだけに追われ、止むを得ず休診に。ラジオから入る情報は凄まじいものだけ、いったいどのくらいの被害かは、映像も無く全く不明。時々見る車のテレビでは、想像を絶する様子が。夜になると停電で真っ暗闇に加えて、救急車や消防車のサイレンも聞こえず不気味な程の静けさ。ライフラインが復旧しない状態がいつまで続くのやら・・・夜になるとすることが無い。キャンドルを前にして、患者さんへの情報提供のためブログを書くが、通信状態が悪くて悪くて。それでも、前日に続き2回目の情報発信。

13日(日)カセットボンベ買い出し途中に、緊急呼び出し。渋滞に巻き込まれて身動きとれず、狭い道であわててUターンしたら後ろをガードレールに衝突。避難所で子どもが発熱ということで、そのまま学校へ。避難所には、500人を越える避難者が。インフルエンザと診断し点滴を。合間に体育館を回り、校長はじめ、先生方に状況の説明を受けた。2日目の夜には運良く電気だけが復旧。明るく暖かいというだけで幸せ。早速情報収集のためにパソコンへ。メール確認で嬉しいことが、中国の會田さん、北海道の今村さん、そしてフロリダの石鍋さんから心配と激励のメールが。こんな時だからこそ、心まで温かくなり涙も出そうに。理念である「お母さんの不安・心配の解消」の実践のためには、情報提供と早期診療開始が必要。震災後の

Mail News を 22:38 に発行。内容は患者さんの安否と、14日からの診療開始の案内を。送ったメールの半数以上が戻ってくるような通信環境の悪さ。

14日(月)診療再開。水道がでないため、シロップは不可と在庫の問題から日数を短くして対応。

15日(火)以後は連日30~40人が受診し、口々に感謝の言葉を。それだけではなく、水が出ないと知って水を持参、お菓子や食べ物の差し入れも、本当にありがたい。夜台所から"ボコボコ"と音がした、何事かと覗いてみると蛇口から空気とともに水が出ては止まりの繰り返し。しばらく待っていると蛇口から希望のひと筋の流れが。思わず家族と万歳三唱。電気につき、当たり前に使っているライフラインのありがたさを感じた瞬間でした。

この頃になると患者さんに笑顔を見せているスタッフの顔にも疲れの色が、中米婦長はクリニック2泊、看護スタッフの佐藤君は自宅に寝泊まりしていたもののガス欠、でもバスと歩きで毎日通院。事務スタッフの福地君は自宅に帰れずクリニック2泊、友人宅2泊、そして避難所1泊。道端君はクリニック1泊したあと、熱を出すような状況。ここまで誰一人休むことなく、愚痴も言わず、患者さんのために働いてくれるスタッフ。金のわらじでも探しても見つからない。通えないだけで休診の診療所もあると聞いて、感謝感謝。

患者さんが増えるに連れて悲しいことが。ご両親が津波にさらわれたと言葉につまるお母さん、働いていた老健施設がなされ自分だけが助かったと涙するお父さん、住居が被災を受け仙台に避難してきた家族、話を聞くたびに目頭が熱くなってくる。誰かに聞いてもらいたい。そんな気持ちを受け止めるのもかかりつけの重要な役割。Mail Newsを流すにつれ、“元氣です”のメールだけでなく、情報提供や早期開院に対する感謝、そして激励のメールが、毎日10~20通も。とくに放射性物質の情報提供では、安心したとの多くのメールが。携帯もつながらない時からの情報発信が多くの患者さんに役立っていたことが証明。あきらめず流し続けて、本当に良かった。

20日(日)仙台市医師会の要請もあり、仙台市内の被害の大きい地域の避難所へ巡回。10日経ったこともあり、物資の面では比較的余裕が。子どもたちの姿は少なく、お年寄りと体の不自由な方が目立つ。場所によって差があるものの、医師や保健師の巡回も。全国各地から被災地の支援に来てくれる方々の協力、本当に感謝の気持ちで一杯。巡回の途中に、被害の甚大な場所で現実をみることに。テレビで見るのとは違う被



『みんなでやれば、大きな力に』
“今、わたしにできること”

災現場。目の当たりにする光景に、目を覆うばかりで言葉も出ない。

書きたいことはまだまだありますが、紙面の都合で全てを書く訳にはいきません。街中は一見すれば普段と変わらない光景ですが、街の華やかさや明るさは、まだまだ感じられません。皆の後ろ姿は、何か悲しいものや重いものを背負っている気がしました。3月末にはガスが復旧し、3週間ぶりに風呂に入れました。「危険」と判断された建物が10%近くあったり、下水道が機能不全に陥っているなどを除けば、食べ物も含め普段と変わらない生活ができるようになりました。しかし、被害の大きい地域では、まだまだ多くの人たちが不自由で辛い生活を強いられています。

日本全国の方々から震災に関して多大なる支援を頂

き、感謝を申し上げます。また医療においても、医師会を始め様々な組織から医師派遣を含め、多くの支援を頂きありがとうございます。友人たちや患者さんから寄せられるメール、電話が我々の活動を支える大きな力になっています。

宮城県だけでなく、東日本全体、ひいては日本という国自体が大きな危機に直面しています。日本の明るい未来のため、思いやりの心を持って、手と手を取りあって、一人一人ができることを考えてみましょう。小さなこと、少しのことかも知れませんが、皆が協力すれば、きっと大きな力になることでしょう。未来を信じて、自分たちができることをすぐにでも実行に移しましょう。

がんばろう！日本

読者の広場

先月は Mail News で多くの情報を発信したこともあり 80 通を越えるメールを頂きました。また、水を持参してくれたり、ケーキ、クッキー、パン、コーヒーやコロケの差し入れ、未使用のおむつの提供、入浴のお誘いなど、多くの患者さんのあたたかい善意を感じることができました。メールでは、地震直後に海外や遠方から心配のメール、早期の診療開始や情報提供への感謝、慰労や心配のメールを頂き、患者さんとクリニックの関係の良さを、改めて感じる事ができました。ひとりひとりへお礼を差し上げることができなかったこの場を借りて、お礼を申し上げます。

宮城野区の上村さんからのメールをひとつだけ。「いつもお世話になってます！放射能のメールありがとうございます！過剰に気にして肺に転送してあげました♪あれから息子も元気になり震災後だったのにも関わらず診て下さって、やっぱり川村先生とは一生お付き合いしていきたいと思えました。こんな大変な時に質問ですが、8ヶ月の息子と1週間～10日程全く会わなかったら私のコト忘れてしまうでしょうか？今回の震災での無理がたり、15日に大量出血して切迫流産で緊急入院することになってしまいました。今妊娠13週で危険な状態なので、退院は早くても来週と言われてしまい(略)息子が私のコトを忘れてしまうんじゃないかと心配で夜も寝れなく、会いたくて心配でいてもいらずメールさせて頂きました。旦那の実家には旦那の妹夫婦とその子供2人ともう一人の妹と弟夫婦、お義母さんがいますが、すぐ下の妹にベッタリになったらしく、昨日お義母さんから、『ママが居ないコトも分かってないし泣きもしないで、なお(妹)にベッタリだから居なくてもママいらずで全然大丈夫だよ』と言われて、スゴいショックで...私に余計な心配しないでゆっくり休みなさいという思いで言うてくれたんだと思いますが、その言葉を聞いてから色々考えてしまって...今は安静にして変なコト考えないでいなきゃいけないのに、いつもプラス思考の私も考え過ぎて、昨日はつわりが再開し、吐き気で寝れなくて、悩んでるなら先生に聞いてみようと思いメールしてみました。地震の不安に加えて切迫流産の心配、そして子どものことまでの心配です。少しで気持ちを軽くするためにつぎのように返信しました。「メールありがとう。大丈夫、こどもは本能で自分を産んでくれた母親がわかっているから。半年も会わなければ、一時的には忘れるかも。でもすぐに思い出すから心配なく。1～2週間程度では忘れません。そんなことより、まずは自分のことを第一に考えなさい。絃のお母さんは、世界で一人しかいないんだから!」。そして返事が「メールの返信ありがとうございます!こんなに早く返信がくるなんて...ビックリしましたあ～☆毎日お忙しいのに、みんなからのメールまでチェックしてるなんて、先生はホントに偉大だ!!!先生からのメールを夜中トイレに起きた時に拝見して、『そっかあ～(^o^)忘れないのがあ～!絃くんのママは私だけだよ』って、当たり前のコトなのに、先生からのメールを見て嬉しくて涙が出て、その後は爆睡でした♪(単純)色んなコト気にしないで、とりあえず自分の体を早く治して、退院の日を1日でも早く出来るようにしたいと思えます★同室の方がいい小児科を探してるって言うたので、カワムラこどもクリニック熱弁で宣伝しておきました!病院選びで悩んでる人って結構いるんですね。私は昔から川村先生なので悩む必要もなく幸せなんだと思いました。これからもよろしく願います m(_ _)m ホントにありがとうございました!!」

スタッフから

今回の地震で、多くの事を経験し学ぶ事が出来ました。二度と起きてほしくはないけれど”備えあれば憂いなし”余震でまだまだドキドキするけど、みんなが笑顔を取り戻せる様に☆力を合わせ頑張りましょう♪(中米)

我が家では、幸いに失うものは食器だけでした。今回の震災では、命の尊さ、他にも多くのことを学びました。人を思いやる気持ちって素晴らしい!!みんなで助け合って頑張りましょう!(佐藤)

今回の地震を体験して思ったことは、何気ない日常生活がとても幸せなんだということです!水・ガス・電気が使える事のありがたさを感じながら“私に今できることは何か?”を考えながら行動していきたいと思えます。(福地)

今回の地震では、資源の大切さを本当に実感しました。そして、不安な中でも支え合う事で乗り切れる、そんな思いを強く持ちながら、これからも無事に復興が進んで行く事を信じています。(道端)

Mail News, Twitter, Blog の紹介



Mail News は、震災を切っ掛けに300人を越えるお母さん方に登録をいただいています。右上のバーコードから「登録希望」と登録者、お子さんの名前を送信してください。

携帯用HP(左のバーコード)でMail NewsとTwitterも読めます。両方で情報を提供していました。Blog(右下バーコード)では、震災の始まりからの詳しい状況を写真入りで紹介してあります。是非お読みください!



編集後記

未だに現実とは、信じられない気持ちです。こんなに大きな被害が引き起こされるとは、自分の周りでは普通の時間が流れているのに、被災地の時間は止ったままです。これから何をすべきか、何が出来るか考えているところです。ひとりひとりが被災者のことを思いやって、行動と協力をお願いします。病院も節電、節水中です。



紙面の都合で、今月のお知らせ・感染症情報はお休みさせていただきました。

震災でのクリニックの対応・院長の取組み・患者さんからのメール・被災状況は、Blog「こどもクリニック四方山話」で!!